

八尾を歩く

常光寺周辺ウォーキングマップ

■當光寺へのアクセス：近鉄大阪線・八尾駅下車、西に徒歩約5分。東車でお越しの場合は、中央環状線・八尾枚方線より入る。



穴太神社（あのうじんじや）

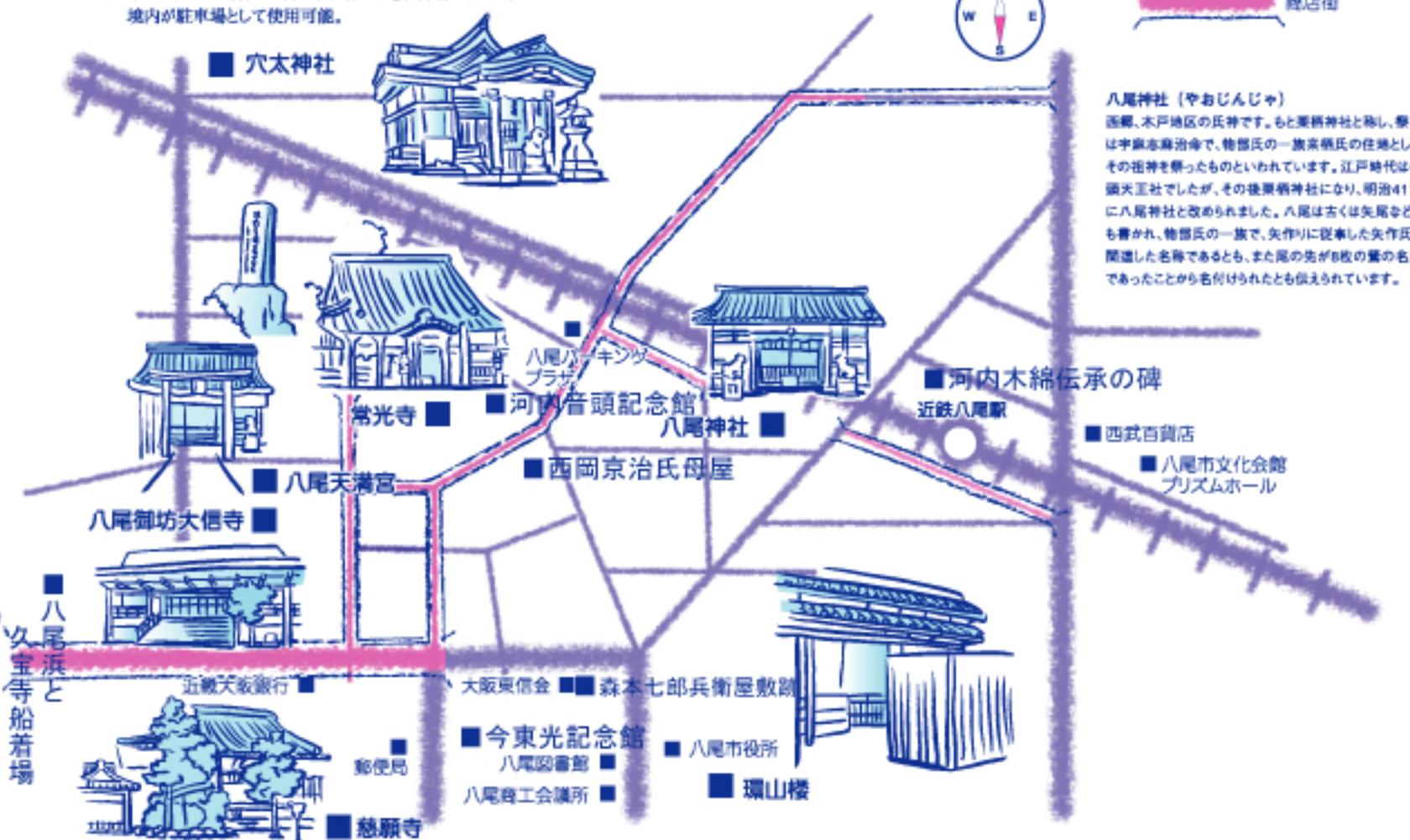
当地域は安徳天皇の設けられた大穗佐の地、聖體太子の生母閼人大太麻里所の成人の地といわれています。当社は古代氏族大太氏の一派の祖神を祭る產土神で、境内に残る寺跡はその氏寺であったと考えられています。

當業寺（じょうぎょうじ）

南都京奈南禪寺金地院末。「八尾の植蔵さん」として親しまれています。行基の創建で、南北朝の戦乱で焼失しましたが、又五郎大夫藤原惠雅が再興しました。足利義満が寄贈し、造営の材木を寄進し額を書きました。また、大阪夏の陣で藤堂高虎はこの寺の縁側で敵の首斬殺をし、今でも血天井として残されています。夏の庭園の隣の、河内音頭による盆踊りは西宮厄除神事として名高いのです。

八咫天鏡宮（やかてんきょうぐう）

八尾寺内町の鎮守で、「八尾の天神さん」といわれています。祭神は天照日命と菅原道真で、慶長年間に片桐且元が確てたといいます。境内には、八尾寺内町開発者森本行督の六代の孫藤吉寄進の灯籠が並んでいます。



八尾御坊大信寺 [やおごぼうだいしんじ]

真宗東本願寺の別院です。慶長11年(1606年)久堂寺村の森本七郎兵衛貞治ら17人家は、東西本願寺の分立に際し、東本願寺教祖卜人に入りましたため、村を出て八尾町西四町四方の地を与えられて移住。八尾開拓を建立し寺内河をつくり、八尾堀川の基を開きました。万治3年(1660年)堤池に塔建、天明8年(1788年)京都本山が焼けたとされ、この本堂を移して仮御影堂に代え、10年後に再びかえされ旧に復しました。昭和28年3月9日突如本堂の煙がくすれ、その後全面改修となりました。黒雲跡の碑があります。

慈願寺 (じがんじ)

真宗東本願寺末。南基は般若聖人真言24壁のうち第13番桃源房法心（俗名須彌翁守實村）といい、弘安3年（1280年）遺命により久宝寺村に慈惠寺を建て、文明2年（1470年）蓮如上人久宝寺作教のさいは、久宝寺に難陀寺が設けられ、東大阪の真宗弘化の中心となりました。慶長11年（1606年）東本願寺につき、森本行誓ら17人衆と八尾に移り、聖家として八尾御坊大信寺の般舟となりました。般若聖人歎伝など寺當が多くあります。

環山櫻 (かんざんろう)

もとは新市町食器割の裏にありました。その後旧市町の支管前に移り、さらに現地へ移りました。江戸時代、施主八尾の豪商であった石田利清が設けた河内の中心池八尾にあった唯一の私塾です。伊藤東蹊が招かれて講じ、高安・二上・金剛の山なみを一望し、その景観から瑞山楼と名づけました。石田一族の墓は郡川の法華寺にあります、今は無縁墓に集められています。